

令和6年度

# 宮井小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な学力の向上に向けた授業の推進
- ②言語活動を充実させ、自分の考えを分かりやすく伝える児童の育成
- ③進んで学習に取り組む態度を育て、学校と家庭の連携による学習習慣の確立

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭3年担任	委員 校長 教頭 教諭 1年担任 6年担任
-------------------	--------------------------------------

校長

【各校の取組状況の把握について】

### ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○児童の漢字・計算などの基礎学力向上を目指し全校で取り組んでいる。漢字の読み書きや計算などの基礎学力を身に付けることが概ねできている。 ●漢字の読み書きや計算などの基礎学力の個人差が大きい。また、語彙量が少なく、文章を読むこと・書くことを苦手とする児童が見られる。	①漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を8割以上身に付けることができる。 ②各学年で定めた目標読書冊数を目指して、進んで読書に向かうことができる。	①ドリルやプリント、テストなどで児童の基礎的・基本的な知識・技能の習熟度を確認する。「くじゃくタイム」を活用し、定着を図る。個人の能力に応じて、自主学習やタブレットドリル等の課題に取り組めるようにする。 ②読書カードを活用し、多読賞を設ける。学級図書を入れ替え、様々な本に親しむ機会を確保する。	・「くじゃくタイム」のドリル学習では、15分という限られた時間なので児童が見通しをもち、集中して課題に取り組む姿が見られた。タブレットの活用では学年の差があるので、どの学年においても計画的に使用していくようにする。 ・読書の機会の確保については、読書カードの活用や学級担任からの言葉かけなどで、積極的に読書する環境が整ってきた。また、家庭での読書習慣の啓発に努める。	①個人差はあるが、平均すると8割以上身に付けることができた。 ②学年が上がるにつれて、読書量が少ない傾向がみられる。また、家庭での読書の習慣の定着は十分ではない。	・引き続き基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための場と機会を確保する。 ・読書カードの内容と活用の仕方を見直す。 ・学級図書の入替えは、引き続き行う。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、自分の意見をもち、考えを深めることができる。 ●自分の考えをまとめることが苦手である。また、意見を相手に伝えることに消極的である。	①自分と友達の考えを比較・検討しながら聞き、自分の考えをより深め表現することができる。 ②自分の考えや意見を意欲的に表現することができる。	①相手の意見を聞き、それに対する自分の考えをもつ場を適宜設定する。 ②発表の形式をスモールステップで指導し、様々な形での発表の機会を増やす。 ③「自分の意見が相手に伝わる」という成功体験を重ねることで、達成感を味わわせるとともに、安心して発表できる環境づくりを行う。	・聞く力は身に付きつつあるが、自分の考えを、発表で個人から全体に広げることに課題が残る。友達の考えを聞き、自分の考えと比較することはできているが、友達の考えを受け、自分の考えを深め、表現する力を育成するよう、発達段階に合わせた指導が必要である。	①聞く力は概ね身に付いてきている。自分の考えと友達との意見の違いに気付き、比較しながら発言することができている。考えを深めることについては、今後も継続して指導を必要とする。 ②ICTの活用や場面設定の工夫もあり、自分の意見が友達に受け入れられる成功体験を重ね、自分の考えや意見を意欲的に表現することができている。	・考えを深めることができるよう、児童の実態に応じて、話し合いの軸を示すなど支援を行う。また、様々な考えに触れる機会を増やし、それを元に自分の考えを深められる機会を確保する。 ・グループワークやペア学習の機会を意図的に設定し、一人一人が自分の意見に自信をもてるような指導を心がける。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組むことができている。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。また、学年に応じて家庭学習の時間を決めているが、学年が進むにつれて、家庭学習の時間が確保できていない状況である。	①学習課題に意欲的に取り組むことができる。 ②自分に必要な課題や興味のある課題、家庭学習に積極的に取り組むことができる。	①児童の主体的な体験や活動を授業や学校生活全般に取り入れ、学習する楽しさを味わうことができるようにする。(ICT機器の活用やホワイトボードミーティング等) ②「家庭学習の手引き」に沿った家庭学習を定着させ、分かる喜びを感じ、様々な課題に根気よく取り組む態度の育成を図る。	・体験的な学習は全ての学年において充実していた。今後、さらに主体的で、協働的な学びになるよう、ICの積極的な活用が求められるため、研修などで得た知識やスキルを校内で共通理解する機会を設ける。 ・家庭での学習環境を整えられるように、より一層家庭と連携できるよう努める。 ・教員が楽しんで取り組むことで、児童が学習への意欲を高められるようにする。	①体験活動、ICT機器の活用により、児童がより意欲的に学習に取り組むことができた。 ②多くの児童が、日々の家庭学習に取り組むことができていたと考えられる。与えられた課題には真摯に取り組んでいるが、自分で課題を見つけて取り組む自主学習については、消極的な児童もみられた。	・今年度に引き続き、体験的な活動や、ICT機器の活用を通して、児童が意欲的に学習に取り組めるよう努める。 ・課題についての調べ方やまとめ方など、自主的に学ぶ方法を身に付けさせる。

